

## 令和6年度 国立国語研究所 運営会議（第3回） 議事概要

日時：令和6年11月1日（金） 15:00～17:00

場所：Web会議

出席者：河原委員、金水委員、呉人委員、近藤委員、滝浦委員、田中委員、皆川委員、  
浅原委員、石黒委員、小木曾委員、小磯委員、高田委員、松本委員、前川所長

議事：議事に先立ち、事務局より、「国立国語研究所運営会議規程」第5条第1項による定足数の確認が行われた。

### <前回議事概要確認>

#### (1) 前回議事概要（案）について

議長から、資料1に基づき、「令和6年度国立国語研究所運営会議（第2回）議事概要（案）」について説明があり、原案のとおり了承された。

### <審議事項>

#### (1) 研究系助教（テニュアトラック）又は准教授の選考について

人事委員会委員長から、資料2に基づき、人事委員会・人事小委員会において選考を行ったものの、国語研が求める水準に達していなかったため推薦者無しとした旨説明があり、本公募では採用を見送ることが了承された。

また、所長から、令和7年10月採用に向けて再公募を計画しており、後日、公募内容について書面審議をお願いしたいとの依頼があった。

#### (2) 研究教育職員候補者の総合的な検討のためのガイドラインについて

人事委員会委員長から、資料3に基づき、研究教育職員の採用及び昇任の基準に係る具体的な評価を目的としてガイドラインを策定する旨説明があり、原案のとおり了承された。

#### (3) 教授（研究系）の内部選考（昇任）について

所長から、資料4に基づき、内部昇任の手続きに従い、准教授3名から教授昇任の申請があった旨説明があり、人事委員会を設置し審査を開始することが了承された。

### <報告事項>

#### (1) 言語資源開発センター特任助教の選考結果及び再公募について

所長から、資料5に基づき、人事委員会・人事小委員会において選考を行ったものの、国語研が求める水準に達していなかったため推薦者無しとする報告を受けた旨説明があり、所内会議で審議した結果、本公募での採用を見送った旨報告があった。

また、令和7年4月採用に向け、改めて公募を開始しており、次回の運営会議で採否を報告する予定である旨説明があった。

## (2) 外部評価委員会(令和5年度実績評価)について

所長から、9月19日に国語研外部評価委員会が開催され、機関拠点型基幹研究プロジェクト全体、それを構成する各プロジェクト、及び2センター等の令和5年度実績について評価を受け、基本的にはいずれも高い評価を得た旨報告があった。

## (3) 第4期中期計画に係る自己点検・評価結果(令和5年度)について

所長から、資料7に基づき、人文機構において、令和5年度における進捗状況の確認及び自己点検・評価が実施され、その結果が7月末に機構ウェブサイトにて公表された旨説明があり、自己点検・評価委員会委員長から、国語研に関する各項目について、いずれも順調に進捗しているとの評価を得た旨補足説明があった。

## (4) 令和7年度概算要求について

所長から、資料7に基づき、「DHによるデータ集積を前提とした言語研究を先導するE3P-Linguisticsの確立(継続)」事業の令和7年度概算要求について、令和6年度継続分の2名に加え、拡充分として4名、計6名の教員等に係る経費を要求していたが、拡充分は認められず、継続の2名分のみ財務省に要求が行われた旨報告があった。また、令和6年度に国語研が委託を受け実施している文化庁委託事業「信頼できる言語資源としての現代日本語の保存・活用のためのデジタル基盤整備事業」について、令和7年度は前年と同額で財務省に要求が行われている旨、併せて報告があった。

## (5) 共同利用型共同研究の採択報告について

所長から、資料8に基づき、6月の運営会議後、共同利用型共同研究(B)2件、共同利用型共同研究(C)2件の応募があり、4件全てが採択された旨報告があった。

## (6) 国立国語研究所の活動について

所長から、資料9に基づき、学术交流協定の締結・更新、研究所の運営・体制、イベントの開催状況、広報・社会貢献活動等、国立国語研究所の活動状況について報告があった。

## (7) その他

### ・次回開催日について

議長から、第4回運営会議を対面形式で2月28日(金)14:00~16:00に予定している旨報告があった。

最後に、議長から、外部委員から一言ずつ意見をいただきたいとの提案があった。外部委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・教員選考について、採用に至らなかったということであるが、自分が勤務している大学でも採用できないことが多い。

研究職の魅力が落ちているとすれば、対策を皆で考えていかねばならない。若手研究者のテニユア職への考え方(任期や給与について)が変わってきていることも原因にあるのでは無いか。

また、外部評価報告書に記載されているコーパスの指標の増加が印象深い。コーパス毎の利用者数などのデータも教えていただきたい。この規模、かつ、長期で提供することは大学にはできない、国語研の強み、存在意義であると思う。

- ・教員採用人事が不成立となったことは残念である。数少ないテニユア職に応募が殺到するものと考えていた。特に数理系の研究者は売り手市場となっており、対策が必要と思う。優秀な学生が研究者として働ける環境があるということ、言語研究が魅力的な研究分野だということを社会に伝えていただきたい。
- ・国語研のミッションについて、二つ目に「日本語ならびに日本語と関連する諸言語について」とあるが、どういうことを想定しているのか見えにくいところがある。過去に国語研が行ってきた対照言語学的研究、類型論的研究は魅力的な研究成果を出している。日本語研究がメインであるとはいえ、それらの魅力というものも考えてもらえれば、国語研の研究に厚みが出ると思う。
- ・研究者育成に関し、日本語学会では、中高生対象に日本語研究のコンテストを行って、アウトリーチ活動をしており国語研にも後援の形で協力していただいている。次世代言語科学研究センターについて、情報・統計を専門とする教員を配置しており、非常に勉強になる。今後、研究活動の場として発展することを願う。また、研究については、自由に使えるコーパス、オープンなコーパスが必要になるので今後拡充していただきたい。
- ・教員採用人事が印象に残った。准教授の応募者一覧を見ると、現在、既に大学の准教授の地位に就いている方もいるが、採用には至らなかったのが大変であると思う。人事委員会が策定したガイドラインのように、数値化・客観化していくことも重要だと思うが、「こういう人が欲しい」ということにフォーカスしても良いのではないかな。
- ・実績評価について、言語資源の利用数が伸びており、これまでの研究の成果が上がっていると思う。しかし、言語資源のみに頼る訳にもいけないと思われるので、次なるものがあるのか。国語研には、これまで地道に行われてきたフィールドワーク、社会調査、方言調査がある。これらを言語資源に取り込んだような展開があれば良いと思う。
- ・次世代言語科学研究センターの拡張が、概算要求で通らなかったのは残念である。引き続き要望していただきたい。  
文字、音声といった「言語」のコーパスに、視線や瞬き等のノンバーバルなコミュニケーションのデータを加えていけば、ロボットとかAIのインタラクションとかコミュニケーションとかの活用のような感じで自然科学系にも広がるのではないかな。国語研ならではのコーパスで成果が着実にあがっているのは素晴らしいと思う。

以上